日本女医会誌
復刊第 202 号
2010 年 4 月 25 日発行
題字　吉岡彌生

巻頭言

さらなる女性医師の活躍を期して

副会長　津田喬子

桜だよりに、待ちわびた春の訪れを感じます。会員の皆様には日々のご診療、ご研究にさらに地域医療推進にますますご活躍のこととお慶び申しあげます。

北国カナダのバンクーバーではパラリンピックが開催されています。少し前に開催された冬期オリンピック競技は、日本選手の悔し涙と観衆のため息で幕を閉じました。参加が決まってから試合までの間、重圧を背に血のにじむような練習をしてきた選手の皆さんには、本当にご苦労さまと言いたいと思います。一部の報道によると、選手数よりも役員の参加数がそれを上回り多くのコーチが参加枠からはみ出て付き添えなかったとのことです。最近はこのような本末転倒の事例が目につきます。飛行中の操縦室内における記念撮影、教育と称してのわが子の虐待、看護師による患者の肋骨傷害、など耳を疑い、目を覆いたくなります。

日経メディカル2010年1月号の特集「女医は医療を救えるか？」にオンライン会員の勤務医807人を対象としたアンケートの結果が掲載されていました。その中の設問“女性医師の増加が、いわゆる「医療崩壊」の一因になっていると思いますか？”に対して、男性（n=586）の40％超、女性（n=221）の33％超がそう思うと回答していました。その理由に関する質問に対して、男性で90％、女性で96％という圧倒的多数が選んだ選択肢は、“出産や育児で職場を離れる女性医師が多い”でした。60％の男性、女性医師の双方が第２に選んだ選択肢は“男性医師よりハードといわれる診療科を選ぶ割合が少ない”でした。私はこの選択肢に疑問を感じました。これでは本末転倒のやり取りにしかならないと思ったからです。第一、女性医師は全体の17.2％しか占めていません（2006年統計）。これが0％となったとしても世に言う「医療崩壊」の原因となり得るのでしょうか？　出産や育児には産休、育休を保障しているのですから職場を離れることはあり得ますし、ハードと言われる診療科を女性が選択すれば医療崩壊が食い止められるのでしょうか。女性医師の増加は10

社団法人日本女医会は HPV ワクチンが承認され、平成 21 年 12 月 22 日から、日本でワクチン接種が可能になったことを歓迎します。今後とも、さらなる啓発活動と接種費用の補助獲得に向かって活動を続けます。

日本女医会誌（第202号）もくじ

巻頭言……津田喬子（1）
◆各部報告
庶務部（古賀詔子）／会計部（濱田啓子）／学術部（内潟安子）／事業部（田中優子）／渉外部（山本蒔子）／広報部（対馬ルリ子）……（3）
◆各委員会事業報告
女性医師支援委員会（荒木葉子）／子育て支援委員会（対馬ルリ子、石原幸子）／長寿社会福祉委員会（山本纊子）……（5）
◆委員会報告
長寿社会福祉委員会……高原照美（8）
「十代の性の健康」支援ネットワーク（ゆいネット）報告会＆セミナー……対馬ルリ子（8）
石川県ブロック懇談会報告……小関温子（9）
支部だより……横須賀麗子（10）
米国女性外科医キャリアシンポジウムに参加して……冨澤康子（11）
私の大学「東京大学医学部」……野村幸世（12）
書評『いのちを産む』……宮﨑千恵（12）
理事会議事録……（13）
会誌広告募集のお知らせ……（16）
厚生労働省より……（21）
日本女医会よりご案内……（21）
第 55 回定時総会のお知らせ……（22）
会員動静……（22）
編集後記……（22）

年前から判っていたことでした。女性医師の増加に伴う問題点を洗い出し、国としての解決策を喫緊の課題として講じなくてはならなかったのですが対応が間に合わなかったことから、増加した女性医師はキャリア継続の入り口で閉め出されたのが事実と思うのです。決して医療崩壊の一因ではありません。

私たちは第26回、27回の国際女医会議（International Congress of MWIA）において、日本の女性医師支援に必要な施策は、労働環境改善、復帰支援制度の普及、女性医師キャリア継続の啓蒙、さらに重要なことは女性医師キャリア向上とその継続への意識改革であること、特にキャリア継続が大事であることを繰り返し発表してきました。日本では過去6年間に保育施設充実、フレックスタイム導入や短時間正職員制度導入などの多様な働き方の許容、復帰支援制度の充実等の多くの施策が職場、地域、行政によって講じられましたが、残念ながら妊娠、出産を契機に、多くの女性医師はフルタイム勤務の第一線からパートタイムへとシフトして、結局ポジションが見つからずに諦めてしまい、そのキャリアを継続できないでいるのも事実です。日本女医会は2009年12月に保育施設の充実、医学生教育の重要性を盛り込んだ要望書を政府に提出しました。これからも、若い世代のキャリア継続につながる事業を着実に推進していくことが求められています。女性医学生、若い女性医師が目を輝かせて、活躍できる環境作りには、百年以上にわたる支援を継続してきた日本女医会並びに広い分野でご活躍の日本女医会会員諸先輩のお力が是非とも必要です。皆様のご支援をいただきながらお役に立ちたいと思います。

各部報告

庶務部

理事　**古賀詔子**

平成20年度

第53回定時総会を平成20年5月18日（日）、本部担当で、京王プラザホテルにて開催。平成19年度会務報告、事業報告、決算報告、平成20年度事業計画案および予算案が承認された。役員改選につき会長以下、3名の副会長、21名の理事、2名の監事、1名のナショナルコーディネーターが選出された。

平成20年度吉岡弥生賞は医学に貢献した会員1名、社会に貢献した会員1名を選定した。

第11回ブロック懇談会を平成21年3月1日（日）、奈良県医師会館にて、奈良県医師会との交流会として20名の出席で開催。奈良県医師会から会長はじめ4名の男性理事の参加があった。男性医師を交える初めての試みとなった。

平成21年度

第54回定時総会を平成21年5月17日（日）、大阪支部連合会担当で、ホテルグランヴィア大阪にて開催。平成20年度会務報告、事業報告、決算報告、平成21年度事業計画案および予算案が承認された。新卒会員の会費を無料にする議案が否決された。

平成21年度吉岡弥生賞は医学に貢献した会員1名、社会に貢献した会員1名を選定した。

第12回ブロック懇談会を平成21年9月6日（日）、福島ビューホテルにて28名の出席で開催。医学部学生も7名参加し、活発な質疑応答があった。第13回ブロック懇談会を11月15日（日）、兵庫県医師会館にて兵庫県医師会との交流会として15名の出席で開催。第14回ブロック懇談会を平成22年1月17日（日）、石川県医師会館にて石川県医師会との交流会として33名の出席で開催。各医師会との交流で、日本女医会について男性医師に知って頂く機会を得た。

会計部

理事　**濱田啓子**

今期、高原、塚田両理事と会計を担当させて頂きました。昨今の社会状況下、女医会会員のみなさまの御協力のもと会費の納入率はお蔭をもちまして維持されております。

しかしながら会員数の伸び悩みにより本部自体の資金は目減りしているのが現況です。

こんな中、多方面の行事が催され、資金調達が大変危ぶまれましたが、総会時のお願いに答えていただき6,895,000円余の寄付を頂戴いたすことができました。諸姉の指定にもとづきこれを吉岡弥生賞口に3,890,000円、本部口に3,005,000円と入金させていただきました。

小田会長、松井副会長、山崎副会長、津田副会長各理事の御協力のもと会員一同の並々ならぬご尽力のたまものと会計一同感謝いたしております。

それにつけましても、今後は更に資金難が予想されます。会員の増強及び会員以外の収入の確保にむけて更なる努力が必要かと思われます。何はともあれ会員の諸先生から納入されます、会費は頼みの綱であり基盤です。会費納入がなされず、自然退会となる会員もおられる昨今です。

実りある実績をつくりつつ今後若い世代の力が入らなければ安定した運営が成り立ちません。

現会員のより一層の御協力と御支援を重ねてお願いいたす次第です。

―１人が１人を勧誘いたしましょうー

学術部

理事　**内潟安子**

学術部は小田泰子会長、津田副会長のもと、荒木葉子、安部由美子、内潟安子のメンバーで、平成20年４月から平成22年３月まで担当した。

学術研究助成

平成20年度は4名の申し込みがあり、上野恵子先生、小川葉子先生、吉田穂波先生3名に決定した。

平成21年度は8名の申し込みがあり、池田啓子先生、大家理恵先生、佐藤加代子先生の3名に決定した。

●学術研究助成受賞者の軌跡

（http://jmwa.or.jp/kiseki/index.html）

これまで日本女医会学術研究助成を受賞された方々からご寄稿いただき、研究や臨床において、受賞者がその後どのように活躍されているかを、平成21年７月から毎月HP上に掲載する企画を開始した。平成22年２月までに23名の受賞者の軌跡が掲載された。これは、日本女医会がいかに社会に貢献したかを探るひとつのツールともなる。

●新薬トピックス

（http://jmwa.or.jp/topics/index.html）

これまで、学術部は学術講演研修会を毎年開催していたが、会員の専門分野が多岐にわたること、都合のよい講演日を決定することが困難になってきたこと、昨今地区医師会などでも多くの講演会が開催されていることなどから、参加会員数の増員を望むことが困難であることに鑑み、日本女医会HP上での研修ページを企画した。そして、「新薬トピックス」と銘打った。

これによって、専門分野がいかに多岐に渡ろうとも、会員の希望に沿った記事を掲載できるものと考える。

事業部

理事　**田中優子**

事業部では津田喬子副会長の下、山田邦子、吉馴茂子、藤川眞理子と田中優子の４人の委員で下記の事業を継続、担当しました。

1．荻野吟子賞　平成20年度　応募者なし
　　平成21年度　３名
2．社会保険新報社への原稿協力。月刊「いきいき」に執筆
3．講習会・日本医学会分科会・女性部会との連携事業
4．女性医師就労継続を考えるシンポジウムの開催
5．学生を対象としたライフデザインシンポジウムの開催
6．医学英語セミナー実施
7．里親制度の実施に対する検討

渉外部

理事　**山本蒔子**

渉外部は、澤口、川村、矢口、山本が担当しています。日本女医会の他に専門職の女性団体である、看護協会、法律家協会、大学婦人協会など10団体で構成されている国連NGO国内婦人委員会や、さらに各分野の39女性団体からなる国際婦人年連絡会議に参加するのが渉外部の主な仕事です。

国連NGO国内婦人委員会の参加団体が交代で担当している事業に、「日本アラブ女性交流」事業があります。平成20年度は日本女医会が受け入れを担当しました。平成21年1月28日から2月4日の間に訪日された、放射線科医師Nawar H. Faris先生（ヨルダン）と政府の母子問題評議員Aziza M. Helmy氏（エジプト）の2人の女性の受け入れ行事に携わりました。日本女医会全体の事業として、内潟理事が中心に担当されましたが、渉外部は出来るだけ時間を取って行事に参加しました。医療機器企業の見学、男女共同参画局長や女性の国会議員への訪問、外務

省の歓迎会、掛川市の吉岡弥生記念館や東京女子医大大東キャンパス訪問などです。また、掛川と東京の未来館において開催したフォーラムに参加しました。

毎年この委員会に所属する団体から担当者が選ばれ、国連総会の政府代表に加わっています。代表の報告会に参加して、国連において討議されている女性に関する問題について学びました。

国際婦人年連絡会議は、常に政府に対して要望書を提出しています。新政権に対して、憲法、平和実現、男女共同参画社会の実現、教育問題、労働問題、福祉政策の推進、環境問題、女子差別撤廃条約などに関して、早速、要望書を提出しました。また、男女共同参画基本計画第3次案に対する要望も検討しました。

この会議の中にはいくつかの委員会があり、日本女医会は家族・福祉委員会に入りました。保育所の問題が検討されて、「保育所整備・増設に関する要望書」の作成に協力しました。このような医療分野以外の女性団体と接することにより、社会的な問題をより広い視野でとらえることが出来ますし、また、女性医師として専門家の立場で要望書作成に意見を述べることもできました。政府への要望書の作成や提出の方法などについても学ぶところが大きく、日本女医会が平成21年12月に政府に提出した「女性医師のための労働・保育・教育環境の整備に関する要望書」の作成にも役立ちました。

平成22年は第4回世界女性会議が北京で開かれてから15年目になるため、平成22年女性NGO日本大会（北京＋15）の開催が予定されています。今後はこの準備委員会へ参加することになっています。

広報部

理事　対馬ルリ子

現在、広報部は、対馬、澁谷、秋葉、宮﨑が担当しています。

広報部の主な仕事は、

1. 日本女医会誌の発行、年4回
2. ホームページの整備
3. 日本女医会入会案内パンフレットの作成
4. 女医会誌の広告集め

になると思います。

このうち、1. の会誌発行は、最も予算も大きく、広報部のメインの仕事になっています。とはいえ、多彩な女医会活動の様子を、広く会員や関係諸機関に知らせるわけですから、巻頭言を会長・副会長にお願いし、各部報告、各委員会報告、ブロック懇談会などの活動報告、国際女医会からのお知らせ、私の大学、支部だより、理事会議事録、会員動静と載せていくと、毎号ほぼページが埋まっていきます。それに、その時々のトピックスや、日本女医会からのお知らせ、総会のご案内などが入り、本のご紹介や寄稿文を入れると、予定のページはいっぱいです。毎号、たくさんの会員の方々の活動が載せきれないほどあるわけで、やはり日本女医会は常に動いているのだなということを実感いたします。平成21年度は、記念すべき200号を発行できたのがとても大きな節目でした。これからも、どんどん記事をお寄せいただけましたら幸いです。いただいた文章が載せきれなくて24ページが32ページになっても、それはそれでうれしいにちがいない……です（その分予算がかかるわけではありますが）。3か月に1回、広報部とあづま堂さんと事務局のスタッフが集まって、会議室で地道な編集作業をやっております。これからもよろしくお願いします。

2. のホームページは、ユートさんのご協力でリニューアルし、少しずつ整備・拡充しています。一時は広告料が入るということで、トップページにバナー広告を載せたのですが「痔でお困りなら……」とか、「医師と合コン！」などの広告が流れ、理事会で皆うーんと悩み、結局は、お金よりも品位をとりましょうということであきらめました。支部の紹介ページもあり、女医会誌からの転載や平成23年東京で開催される国際女医会（MWIA）のご案内も載せています。支部長の先生方、活動紹介にどうぞご利用ください。

3. これまでの女医会の入会案内が、やや古い感じになってきたということで、新しいパンフレットを作成中です。デザインも決まり、あとは学生会員などの規約と会費が決定すれば印刷・発行できる予定です。いましばらくお待ちください。

4. 広告集めは、誰かが常に気にかけていなければすぐに途絶えてしまう危険性があります。これまでは、広報部の担当者のみが製薬会社などに声をかけて集めていましたが、経済情勢もあり厳しい昨今です。そこで、理事の皆様と高原先生のご協力により、広告料を安くし、女医会活動に賛同してくれる企業・団体から広く広告を集めることにいたしました。お蔭さまで、現在3号先ぐらいまで掲載の予定が決まっています。ありがとうございました。これからも皆様のご協力をよろしくお願いします。

各委員会事業報告

女性医師支援委員会

委員長　**荒木葉子**

女性医師支援委員会は、津田副会長、山崎副会長をアドバイザーとし、澤口理事、宮﨑理事、山田理事、塚田理事、藤川理事、対馬理事、矢口理事と荒木で構成され、荒木が委員長を務めた。

平成21年度は、

①女性医師に関する調査や支援に関する情報を収集し、ホームページ上に「女性医師ライブラリー」を作成する

②女子医学生および女性医師のキャリア支援のために、日本女医会理事が中心となって、様々なキャリアパスの可能性を提示する書籍を刊行する

③女性医師のキャリアの障害になっている課題を明確にし、解決のためのシンポジウムや社会に対する発信および行政への要望を継続的に行う

④女性医師支援のための様々な組織とネットワークを作る

という4つの目標を掲げた。

女性医師に関する調査としては、日本医師会、地区医師会、学会、大学医学部、同窓会など数を増してきている。女性医師増加が我が国の医療人材に与える影響は増大しており、如何に女性医師のキャリアを継続させ、質の高いものにするかが重要な課題になっていることがわかる。日本女医会の会員専用サイトの女医会ライブラリー（http://jmwa.or.jp/db/index.html）を平成21年7月1日に作成し、女性医師に関係する行政資料、日本女医会の調査、医師会、学会、大学などによる調査、女性医師支援策、日本の女性医師に関する文献などをまとめて掲載した。今後、更新や記録の保持をどのようにしていくかが課題である。

『あなたらしいキャリアを創ろう～日本女医会からのメッセージ～』（真興交易医書出版部）を発刊した。会長、副会長、大先輩である長池博子先生から、大学にて現役で活躍中の矢口理事まで、総勢24人の様々なキャリアとご自身のライフが語られた。女性医師のキャリアパスは男性に比して多彩であり、やはり継続すること、諦めないこと、楽しむことが大事という前向きなメッセージで埋められた。

「第3回　医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム～女性医師が働き続けられる環境の実現に向けて～」を平成22年10月25日に開催した。今回は、特に保育に焦点を当て、日本医師会の大規模調査、子育て世代の女性医師の現状報告、厚生労働省科研費による「女性医師が働きやすい職場づくり」ガイドブックの紹介（http://www.jaog.or.jp/diagram/notes/jyoseiDR_2008.pdf）、女性医師のためのナーサリーの紹介、足利赤十字病院の実践、東京都の行政支援策の紹介、厚生労働省雇用均等・児童家庭局伊岐局長の講演をいただいた。本シンポジウムは事前に厚生労働省でプレス発表を行い、シンポジウムでの討議をまとめて長浜厚生労働副大臣に保育に関する要望書を提出することができた。

日本女医会のブロック懇談会議などでも女子医学生、女性医師の課題が取り上げられ、今後、様々な組織と連携を作ることが必要であると思われた。平成21年度のネットワーク事業は不十分であり、次年度への継続課題としたい。

子育て支援委員会

「十代の性の健康支援ネットワーク（ゆいネット）」

委員長　**対馬ルリ子**

日本女医会が子育て支援事業の一環として平成13年から取り組んでいる十代の性と健康支援プログラムは、平成20年からまた福祉医療機構の助成金をいただき「十代の性の健康支援ネットワーク作り」事業として継続発展しています。このネットワークは、“十代の性の健康支援ネットワーク（通称ゆいネット）”と名づけられ、4つのモデル地区で横断的連絡協議会を開催しながら、それぞれ様相の違った発展を見せています。

北海道では、平成20年当初、行政の窓口でたらいまわしにあっていたゆいネットが、平成21年には前年度の報告書を見せるだけですぐ話が通じるようになり、意識の高い担当者が連絡協議会に出てきてくださるようになりました。また、6月の連絡協議会のあとの懇親会で、次回の札幌ゆいネットを独自に開催しましょうという提案が出て、その後9月、

11月、2月と、年度末までに3回ゆいネット勉強会を開催するほど活発に交流するようになりました。

盛岡では、平成15年ごろから十代の中絶率ワースト3になった危機感から県医師会・産婦人科医会が教材を作成し活動していましたが、今回は、ゆいネットの後、県立病院や産婦人科医会、養護教諭や少年院・婦人刑務所、警察、大学、学校などの多彩なメンバーが集まって「岩手思春期研究会」を設立し、門戸を広げ、興味のあるメンバーは誰でも参加できる体制で活動していくことになりました。

名古屋は、2年度の連絡協議会に際して保健行政担当者が「前年に協力したからもういいでしょう」と冷たい対応をしてきたため、いったん連絡協議会の日程をキャンセルし、もう一度つながレットNAGOYAや女性産婦人科医と連携して2月に連絡協議会を開催しました。お陰様で、参加者は少なくても熱心な話し合いがもてました。

岡山は、もともとさまざまな草の根的な研究会があったのと、上村先生という強力なキーパーソンや大学、教育委員会、県の担当者がとても理解がありまた協力的で、スムースに連絡協議会が開催されました。今後、ゆいネットならではの横断的な「顔の見える」ネットワークを構築するための年2回ほどの岡山独自の企画を考えているところです。

来年のゆいネットの発展がとても楽しみになってまいりました。モデル地区も3地区ほど増やす計画です。また、各地で集まった性の健康トラブル具体例（若年妊娠出産、援助交際、レイプ、くりかえす中絶、デートDVなどの症例）がたくさんありますので、次年度は、ではどのように対応すればよいのか、すみやかな対応や連携によって再トラブル防止に結び付けるにはどのようにすればよいのか、を検討して、対応マニュアル集にまとめる予定です。来年もゆいネットにどうぞご期待ください

ゆいネット委員会

対馬ルリ子（ウィミンズ・ウェルネス銀座クリニック 産婦人科）
津田　喬子（名古屋市立東市民病院 麻酔科）
鹿田　儀子（しかだこどもクリニック 小児科）
乙女　智子（神奈川県立汐見台病院 産婦人科）
堀本　江美（苗穂レディスクリニック 産婦人科）
斎藤　恵子（西松園内科医院 内科）
渋谷きよみ（神奈川県立汐見台病院 産婦人科）
金重恵美子（岡山中央病院 産婦人科）

パーキンソン病治療剤　薬価基準収載

エフピー®OD錠2.5

FP®-OD（塩酸セレギリン口腔内崩壊錠）

劇薬　覚せい剤原料　処方せん医薬品
（注意ー医師等の処方せんにより使用すること）

●効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照下さい。

〔資料請求先〕
エフピー株式会社
〒580-0011　大阪府松原市西大塚1丁目3番40号
TEL:0120-545-427　FAX:0120-728-093
URL:http://www.fp-pharm.co.jp

® 登録商標
平成21年11月作成

地域委員

札　幌　小野寺るみ子（社会福祉士C&F ウェルフェアセンター）
盛　岡　佐々木恵子（NPO法人参画プランニング･いわて）
名古屋　鬼頭　拡美（臨床心理士）
岡　山　内尾　京子（岡山ＳＲＨ研究会代表）

「小児救急子育て」

委員長　石原幸子

光陰矢の如しと申しますが、私共の活動も4年経過致しました。本年は委員会を2回開催し、下記の事項に付き報告、決議致しました。

1）大手製薬会社から、大量の冊子購入の依頼があり、数回検討を致しましたが、会社の宣伝を優先する数ヶ所の訂正の要請があり、本意に反するため契約を打ち切りと致しました。しかしながら、一流企業からのアクセスに私共は一層勇気を頂いた気が致します。
2）救急の冊子は現在までに42,000部受注致しました。（1万冊は増刷発注中）本年度も大学、高校、幼稚園、保育園、役所等順調に購入されております。
3）この冊子を用いた講演会の依頼も東京4回、栃木2回、埼玉12回、ございました。
4）講演用CD-Romを作成致しました。先生がた講演の際ご利用下さい。
5）埼玉県から日本女医会埼玉支部に大変高額な助成金が交付されました。

私共子育て委員は冊子の売り込みと同時期、埼玉県庁医療整備課の依頼を受け、子育ての冊子を使って、埼玉県内の各所で十数回小講演を行いました。以来、整備課の依頼は断ることなく続けてまいりました。これにより日本女医会の名は埼玉県庁に根付いたと一同話し合ったところです。

何れにせよ、現在子育て委員の村田郁先生が日本女医会埼玉支部長として頑張っておられますので、私共は必要なときはいつでもお手伝い致す所存です。精一杯頑張って戴きたいと念願しております。

長寿社会福祉委員会

委員長　山本纊子

当委員会は、独立行政法人福祉医療機構からの助成を受けて平成18年～19年度にかけて「たんの吸引を安全に実施するための教育講習事業」を実施しました。それに続いて、嚥下障害のため、経口摂取ができず経管栄養や胃瘻造設を余儀なくされる高齢患者が増加しつつある現状を鑑み、平成20～21年度にかけて「在宅高齢者（嚥下障害者、胃瘻造設者）の栄養管理事業」を計画し、同機構の助成金の交付を頂き、平成20年度は委員会5回、講習会2回を開催いたしました。

委員会構成は、委員長は山本纊子（文責、藤田保健衛生大学名誉教授・並木病院院長前日本女医会理事）、委員として松井ひろみ先生（日本女医会副会長）、大坪公子先生（三軒茶屋病院院長、前日本女医会理事）、秋葉則子先生（日本女医会理事）、東口髙志教授（藤田保健衛生大学七栗サナトリウム外科学・緩和ケア）、向井美恵教授（昭和大学歯学部口腔衛生学―言語・嚥下専門）の6人です。

事業の目的は、在宅高齢者及びその介護者への栄養管理知識の普及と安全な経管あるいは胃瘻栄養実施の教育、対象は、主として人工的栄養管理を要する在宅患者の家族およびホームヘルパーさんで、平成21年度は委員会を3回、講習会を5回開催いたしました（表参照）。

委員会
第1回21年5月22日 第2回21年10月2日 第3回21年12月5日

講習会		
開催日時	開催場所（市）	参加人数
第1回 6月13日	崎陽軒ホール（横浜）	130名
第2回 7月4日	じゅうろくプラザ（岐阜）	86名
第3回 8月8日	札幌医科大学（札幌）	60名
第4回 11月13日	サンビュー群馬（前橋）	62名
第5回 2月14日	富山国際会議場（富山）	101名

横浜では小関理事、岐阜では宮崎理事、札幌では濱田理事、群馬では山田理事、富山では高原理事が中心となり、地元の方々の協力のもとに盛大な講演会が開催され、日本女医会をアピールする良い機会となりました。委員長、副委員長、大坪委員はほぼ毎回出席し（第2回と第5回には小田会長もご出席）、

支部長を始め支部会員の方々と交流を深めることができました。

今や胃瘻造設者は約30万人になろうとしており、今後も更に増加する状況です。在宅介護においては嚥下障害のある患者さんの栄養管理には胃瘻が不可欠になっており、家族やホームヘルパーさんに胃瘻の扱い方を教育し、訪問看護師や医師の負担を軽減しなければ在宅介護は破綻しかねないのが現状です。介護士やヘルパーさんに確実かつ安全に胃瘻栄養実施方法を教え、一定の基準を満たせば彼らが行えるよう所轄官庁に働きかける必要があり、また、この事業を通して単に身体的な管理に終始せず、介護を担う人々に終末期の諸問題を考える契機になることを期待したいと思います。

委員会報告

長寿福祉委員会 富山での講習会報告

理事　**高原照美**

主　催：社団法人日本女医会　長寿社会福祉委員会
後　援：富山市、富山県、富山市医師会、富山県医師会
日　時：2010年2月14日（日）13:30～16:30
会　場：富山市大手町1-2　富山国際会議場
参加者：約130名（医師14名、看護師65名、介護職16名、管理栄養士3名、その他32名）

2月中旬の富山ということで雪が懸念されたが、当日は幸い晴天に恵まれた。申し込みを上回る101名の受講者が集まった。

小田会長はじめ山本委員長、藤巻支部長の挨拶の後、講演会が始まった。宮嵜孝子先生による胃ろう造設、金井正信先生の胃ろう管理のトラブル、そのほか栄養剤、口腔ケアと嚥下リハビリの御講演をいただいた。その後休憩をはさんでDVD学習と実習に移った。8テーブルにわかれ、胃ろうの注入法と口腔ケアを学んだ。胃ろう注入法の実習では、胃に見立てたタッパーを用い実際のカテーテルから栄養剤を注入し胃ろう取扱実習を行った。普段から胃ろうの取扱をされている受講者も多かったが、胃の中

にどのようにチューブが留置されているか、チューブの種類の違いなどの体験は有意義であり、また各テーブルでは施設ごとによる違いなどが大いに議論されていた。また口腔ケアの実習では2人1組で口腔ケアを実践した。日ごろ行っている手技でも自分が体験するとまた異なる発見があったようである。

またとろみ剤の味見も行ったが、思った以上においしくない、との意見であり今後の参考になった。別室では各社の商品展示を行い、その場での活発な意見交換が行われ出席者、各社双方にとって有意義であった。実習の最後に総合質疑応答があり、たくさんの質問が出された充実した会であった。最後に大坪副委員長からの挨拶で無事終了した。

後日談であるが、当日用いた嚥下リハビリのDVD（至誠会作成）の反響が高く、ぜひ施設で使わせてほしい、という注文が3件あった。お許しを得て配布させていただいた。

「十代の性の健康」支援ネットワーク（ゆいネット）報告会＆セミナー

理事　**対馬ルリ子**

3月7日（日）、四谷のルークホールで平成21年度ゆいネット報告会とセミナーを行いましたので報告

します。

当日はあいにくの寒い日で、雨がしとしと降っており雪になりそうな気配でした。しかし、持田製薬のルークホールに集まった数十名にとっては、熱い気持ちをもって、自分たちとゆいネットの果たすべき役割を再認識した午後であったといえます。

日本女医会がとりくんでいる子育て支援事業、「十代の性の健康」支援ネットワーク（通称ゆいネット）は、今年の3月で2年度の事業を終了しました。事業仕訳の行方によっては3年度計画がないかもしれないという状況ではありますが、この事業は、2年間で順調に発展を見せております。4つのモデル地区（札幌・盛岡・名古屋・岡山）で展開された横断的な地域ネットワークは、これまで他の組織ではなしえなかった、医療・行政・警察・大学・民間の活動を顔の見える関係として結んだといえます。また、それぞれの地区で、地域独自の勉強会や研究会が、ゆいネット活動として発展しており、より具体的に、よりすみやかに連携できるネットワークが各地にできてきています。かつ、日本女医会会員は、年長者も発展途上者たちも、女医会活動を通じてこのようなネットワークができ、またそれが愛する地域の人びとの役に立つという喜びをもつことができ、たいへん満足しています。まさに日本女医会のネットワークであり、また日本女医会にしかできない地域ネットワークです。

報告会では、それぞれの地域のゆいネット報告のあと、セミナーを行いました。盛岡少年刑務所医務課長さんの八木淳子先生からは、若年受刑者の特性からみた子どもの発達の特徴についてお話がありました。

次に、岡山のウィメンズ・クリニックかみむらの上村茂仁先生からは、メール相談から見えてくる子どもたちの現状についてお話していただきました。そして、３番目に北海道大学の上宮愛先生から、子どもから事実を聞く司法面接について紹介していただきました。それぞれ現場の実践に基づいた専門的でありながら誰にとっても勉強になる内容で、出席者が少なかったことが悔やまれました。

来年は単に報告会というタイトルの会ではなく、「セミナー」であって、報告以外にも役に立つ情報がたくさん得られる会であることを強調したいと思います。ご参加をお待ちしております。

石川県ブロック懇談会ご報告

理事　**小関温子**

1月16日（土）の理事会終了後、小田会長、宮本理事は新幹線で、山崎トヨ副会長、古賀、小関、澁谷理事の４人はJALで、翌朝に津田副会長、高原理事が現地入り。金沢は雪景色で思ったより暖かく空気が澄んで、青空と幸せな天候に恵まれました。

1月17日（日）AM11：00から懇談会は開始。石川県医師会長、副会長、男性理事、女性医師支援委員長、日本女医会石川支部長など多数ご参加いただきました。

小森貴石川県医師会長のご挨拶は、「金沢は医師も多く、金沢弁も多く残っている。また、職人の多くは大工であるが、伝統工法を海外にも伝えるために作ろうとしている。雪深い金沢では雪は汚いものを隠すあたたかいもので歓迎すべきである。女性医師の増加（50％）には心を開きあって共に仕事をしていきたい。出産後も子育てしながら医療を続けて日本の医療を担っていただきたい」との内容でした。

小田会長には日本女医会の長きにわたる会の歴史をご説明いただきました。公許第1号荻野吟子、日本女医会創設に関わった先人、特に吉岡彌生の筆舌に尽くし難いご苦労を思いながら、現在の女性医師が多く働ける基盤ともなっていることを忘れてはならないと、いつものことながら思いました。

津田副会長からは、日本女医会が取り組んでいる女性医師支援、女性医師と男性医師の医局に対する希望など性差のアンケートなどが判りやすく説明され、女医会の取り組みに他の追随を許さないものを感じさせられました。

山崎副会長からは、日本女医会が取り組んでいる事業内容の説明で特に子育て支援における「小児の

救急マニュアル本」の冊子は全国小児科医特に小児科医会会長から絶賛され4万5,000部以上が保育園、保健所、幼稚園などに有効に使われていること、また長寿社会委員会からは胃ろうの講習会を全国展開していることなどの説明がありました。また高原理事から2月14日に富山で行われた講習会の説明がありました。

石川県医師会側からは女性医師の再就職に取り組むためのメンターを立ち上げたことをお聞きし、男性医師も関わる仕組みは東京近隣の医師会より開かれていると受けとめました。小田会長はそれぞれの県でいろいろ取り組んでいるのですね！と感心しておられました。

会終了後、何十年振りに金沢を訪れた私は山崎トヨ先生と観光することになりました。タクシーでこれぞ金沢と呼べる場所を廻ったのですが、最も印象深かったのは、江戸時代末期に前田家13代の奥方のために建造された成巽閣でした。広いお部屋は寒さで身も凍るようでしたから、暖房もなく、質素な食生活だった昔は多くの人が短命だったことが想像されます。私達女性医師の時代を迎えてより一層の努力が必要と感じました。

■支■部■だ■よ■り■

佐賀支部長　**横須賀麗子**

平成21年1月17日、恒例の新年会をホテルニューオータニ佐賀で行いました。

総会・懇親会・写真撮影、富樫先生のパイプオルガンと渡辺先生のフルートの演奏があり有意義で楽しい集いができました。

また、一昨年荻野吟子賞を受賞された緒方先生には、昨年新潟国体で秩父宮賞及び佐賀新聞社文化賞

劇薬　処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）
ペグインターフェロンα-2b製剤　薬価基準収載
ペグイントロン®
皮下注用50μg/0.5mL用/100μg/0.5mL用/150μg/0.5mL用
注射用ペグインターフェロン アルファ-2b（遺伝子組換え）　PegIntron
●効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元　シェリング・プラウ株式会社
〒541-0046 大阪市中央区平野町2-3-7
http://www.schering-plough.co.jp/
資料請求先　カスタマーセンター
フリーダイヤル 0120-037-189
〒163-1033 東京都新宿区西新宿3-7-1

C型肝炎
情報ウェブサイト
医療関係者の方への専門情報から一般の方、
患者様のためのC型肝炎情報を掲載
www.c-kan.net

2009年6月作成

を受けられたお祝いに記念品をお贈りし、お祝い申し上げました。佐賀陸上競技会会長でもあり、片や長年テニス選手の指導や子供の教育に貢献され、スポーツを文化として評価されるまでに努力されたことによるものです。

自己紹介も毎回行っておりますが、80代で毎週テニスをされている方々、社交ダンスやバドミントンを続けておられる方、新しく開業された方、仕事以外にそれぞれ趣味や特技でボランティアをされているお話しを聞き、歓喜の中でごちそうをいただくのが恒例です。

昨年は、100歳を迎えられた千住冬子先生の白寿のお祝い会を行いました。戦前より佐賀で女性医師の交流を続けていたお一人で、佐賀の数少ない女性医師の絆を作り上げた方です。私達若い者に「私の100年をかえりみますと女性医師として、母として色々の思い出があり、女性の立場であっても、その頃は楽しく徴用され楽しいことも多くありました。悲しいこともありました。貴女方はまだ50年も残りがある方です。精一杯頑張って下さい」とのお言葉をいただき、まだまだ人生は長いのだと希望を持ちました。

例年、佐賀市医師会新年会の後の日曜日に日本女医会総会、翌日に女性名刺交換会に出席します。各分野で結成された薬剤師会・歯科医師会・芸能関係・社会奉仕団体・趣味の会、ほんとうに様々な女性グループが一堂に会し、4分間のアピールの檀上登場があり、女性の活躍の報告があり、勇気づけられる会です。

昨年は女性三師交流会を立ち上げ、今回は日本女医会が主催で女性歯科医師・女性薬剤師が集まり発会式を行いましたが、今年2月23日には薬剤師女性部会の勉強会に、子宮頸癌ワクチン接種啓蒙に関する講演を依頼され、内山先生にご講演いただきました。

新しい方にもお声をかけ、出席していただいた方に楽しく過ごしていただいています。

会員はそれぞれ医師として活躍されている方ばかりで、開業・大学・県病院・私的病院勤務と様々ですが皆さん素晴らしい方々です。今後も末永く運営されていくと思います。皆様よろしくご指導下さい。

関連団体より

米国女性外科医 キャリア・シンポジウムに参加して

東女医学内支部　冨澤康子
（日本女性外科医会　世話人代表）

右からFacultyの一人Dr.Mary C MaCarthy、医学生Tarahそして筆者

米国フロリダ州、セントピータースバーグにて2010年2月27日に開催された第1回米国National Women Surgery Career Symposiumに萬谷京子先生（愛知医科大学乳腺・内分泌外科）と参加した。

約200名のシンポジウム参加者には女性外科医、レジデント、医学生、看護師、高校生、それに10名未満の男性が含まれており、日本からは我ら2人のみであった。「外科学会で私が女性で初めて座長になった」、「私がフロリダ州での最初の女性外科医だ」と、女性外科医達は歴史にすばらしい足跡を残してきていた。ところが、「首を切られたことはないが自分から2回やめた」等の話を聞くと、自由に働く場所を選んでも、それなりに大変であったことが感じられた。

パネルディスカッションで壇上に並んだ女性外科医師全員に複数の子供がいた。多くの女性外科医がキャリアを継続しながら、いつ出産を計画するか悩む。最近、米国女性外科医会、他からレジデントの間の産休に関するポリシーが出された。日本でも検討の時期に来ていると思われた。外科部長が預かってくれる人の隣の家に引っ越しなさい、オンコールで呼ばれたらその人に100ドル払って預かってもらいなさい、等の緊急保育の手段を提案したが、日本でも可能である方法が含まれていた。また、メンターの存在が重要であることについて熱く語られた。

米国女性外科医会は設立して30年、脳外科、整形外科、形成外科も含まれていて、800名のメンバーがいる。日本女性外科医会は2009年11月に発足し4カ月で、70名の会員を集めた。学会の外に支援

パネルディスカッション　左からCassell（作家）、Drs.Kemeny、MaCarthy、Phillips、Love

の会を作っても、下部組織として女性医師支援委員会を学会本体の中に作り、男性医師の理解を得、活動することが大切であるとの助言を受けた。ネットワーク作りは重要で、今回参加したような会で名刺を交換し、話す機会をもち、情報を交換し、我々が若い頃に得られなかった知恵をあとに続く女性外科医に残すことができれば幸いであると思った。この会でお目にかかり、名刺をいただいた医師は大変筆まめであり、お礼のメールを送ったところ、全員がメールを返してくださった。

日本女性外科医会（http://jaws.umin.jp）は4月10日（土）に第1回定例会を持つ。外科に限らず、外科系女性医師の情報交換の場所として活用され、発展出来れば幸いである。

私の大学
東京大学医学部・医学系研究科

文京支部　**野村幸世**

私が東京大学医学部医学科を卒業してはや22年目を迎えようとしています。入学、卒業当時にこんなに長期にわたり、大学に残ることになろうとは想像だにしておりませんでした。

東京大学医学部・医学系研究科の歴史は日本の医学部の中では古く、1858年（安政5年）に神田お玉が池に創設されました種痘所を発端としております。その後、改名、移転を繰り返しますが、1877年（明治10年）東京医学校が東京大学医学部となりました。一昨年、150周年記念事業が行われ、歴史の深さを感じました。時代劇に登場する小石川養生所も現在、理学部附属小石川植物園となっており、東京大学へとその流れは通じております。

東京大学と御聞きになると、敷居が高く感じられる方もおられるかと思いますが、実態は違います。特に昨今、医学部卒業後の2年間のスーパーローテンションが義務づけられ、マッチング制度により、初期研修医の半分は他大学の出身者となっています。処遇などに学外出身者と学内出身者との差別はほとんどないと思います。こういうところが、東大の良さであると認識しております。よく言えばfairであり、悪く言えば、おぼっちゃまの集団なのかもしれません。いずれにしろ、昨今増加しつつあります女性医師に対しても、分け隔てなく、研修の場を提供しています。官職の上層部に女性が少ないことは大きな問題ですが、これは今後の課題と認識しております。一昨年、医学部に男女共同参画委員会も設立され、活発に活動しております。

一方、最近の経済事情を反映してか、病院収入などに重きがおかれ、学問が衰退する傾向にあることを肌で感じております。東大の社会的任務はやはり学問であり、新しい治療の開発であり、これなくしては日本の将来は危ういといえるでしょう。

出身は問いません。学問に熱意がある方に東大の門戸をたたいていただくことを切に願っております今日この頃です。

書評『いのちを産む』

大野明子（文）、宮崎雅子（写真）
学研　2,600円（税別）

産婦人科女性医師である筆者が、数名の助産師と共に、自宅のような小規模の産科診療所を開業し、自然に近いお産を実践している。その様子や、妊婦の夫や子供たちなど家族とのスナップを載せた写真集である。後半は、産科医師として、最近はあまり実践されていない、ほとんど自然に近いお産を推奨し、その良さを見直す必要性について述べている。また医師不足の理由の大きな原因でもある女性医師の増加に対しての働く環境改善への取り組みの必要性や、男性医師も含めて産科医師の疲弊していく様々な理由や、産科医師の苦悩、出産に立ち会う喜び、などを切々と語っている。その中で、大野病院事件のような医師逮捕という事例の分析や、医療に警察が関与することへの異常性を述べ、これからの産科医療の問題点や、良い医療を患者さんから求められるにもかかわらず、日本の政府が医療費に支払う予算が世界と比較し大変少なく、こうした状況で開業医も勤務医も疲弊していることなどを、真剣にとらえて語っており、産科医師、女性医師のみならず、出産をする女性にもぜひお奨めしたい一冊である。**（宮崎千恵・選）**

ここから、
薬ができるんだ。

がん、リウマチ、
腎性貧血、C型肝炎。
私たちは、
最先端のテクノロジーで
病気に立ち向かっています。

バイオ、ゲノム、抗体医薬。
最先端テクノロジーから生み出された中外製薬の医薬品は、
さまざまな疾病領域の治療に貢献しています。
新しい治療薬を待ち望む人がいる限り、
私たちの挑戦は終わることはありません。

CHUGAI 中外製薬
Roche ロシュ グループ

今までにない医薬品を、今までにない力で創り出す。 http://www.chugai-pharm.co.jp/

クリームタイプの性ホルモン軟膏

経皮吸収エストラジオール・
エチニルエストラジオール軟膏剤
（クリームタイプ）

第②類医薬品
女性ホルモンの補充に
《女性ホルモン軟膏 バストミン》

経皮吸収テストステロン軟膏剤
（クリームタイプ）

第1類医薬品
男性ホルモンの補充に
《男性ホルモン軟膏 グローミン》

●「効能・効果」「用法・用量」「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

製造販売元 大東製薬工業株式会社
本　社 :〒171-0052 東京都豊島区南長崎4-36-13
甲府工場:〒400-0811 山梨県甲府市川田町アリア207

お客様相談室・甲府工場
0120-24-6717
URL: http://www.daito-p.co.jp E-mail:info@daito-p.co.jp

2010年3月作成

(((理事会議事録)))

日　時：平成 21年11月14 日（土）午後 3 時
場　所：社団法人日本女医会 会議室
出席者：津田、松井、山崎、小関、川村、古賀、澤口、澁谷、高原、田中、塚田、対馬、濱田、藤川、宮本、山本、吉馴、中井、森川（19 名）
欠席者：小田、秋葉、安部、荒木、内潟、宮﨑、山田、矢口（8 名）

10 月理事会議事録を承認

【報告事項】

1. 庶務部報告（宮本理事）
   1）理事会を開催（10/17）
   2）「第 3 回医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」プレス発表（10/20）
   　同上シンポジウムを「女性と仕事の未来館」にて開催（10/25）
   3）第 3 回軽井沢セミナーを開催（10/31）
   4）「天皇陛下御即位 20 年宮中茶会」に小田会長出席（11/13）
   5）会員動静
2. 会計部報告　（高原理事）
   10 月分収支の承認。
3. 事業部報告　（藤川理事）
   1）第 2 回チャットルーム開催（10/18）英国で医師となった宗像恭子氏、川上玲奈氏を迎え、学生 9 名（福島県立医大 2 名、東京女子医科大学 7 名）、女性医師 3 名、日本女医会からは藤川理事、吉馴理事が出席。
   2）第 1 回学園祭ポスター展示事業を東京女子医科大学で展開（10/24）
4. 渉外部報告　（山本理事）
   10 月 30 日、国際婦人年連絡会・家族福祉委員会に出席。委員会で「公的保育所整備の要望書」を作成している。日本女医会からも関連する要望書提出を予定していることを紹介。委員会からは十代の性の健康に関する話などの希望もあり、今後も協力する。
5. 広報部報告　（対馬理事）
   女医会誌 200 号を 10 月 27 日に発送。1 月発行の 201 号会誌の準備を始める。
6. 学術部報告　（津田副会長）
   HP に「学術研究助成受賞者の軌跡」と「新薬トピックス」を順調に掲載中。
7. 委員会報告
   1）子育て支援委員会　（対馬理事）
   　11 月 7 日「連絡協議会 in 岡山」を開催。
   2）長寿社会福祉委員会　（松井副会長）
   　11 月 7 日に講習会を前橋で開催（詳細は山田理事より 12 月理事会で報告）。
   3）女性医師支援委員会　（津田副会長）
   ・10 月 17 日、委員会を開催。
   ・10 月 20 日、厚生労働省記者クラブにてプレス発表。今後も内外に向けて日本女医会の活動を広報する。
   ・10 月 25 日、第 3 回キャリア・シンポジウムを開催。メディアも含めて 90 名を超える参加者があり、女性医師支援における子育て支援の

あり方について多くを学ぶことができた。さらに、日本女医会の存在もアピールでき大成功であった。
・川村理事より出席者で愛知医科大学・萬谷医師から手紙の紹介があった。

8. NC 報告　（津田副会長）
国際女医会から「妊娠中の糖尿病管理に関して」のアンケートを実施する予定があるので、ご協力をお願いしたい。

9. その他の報告
・松井副会長から公益法人準備のための専任者（羽田 円氏）の紹介があった。
・小関理事より軽井沢セミナーの追加報告。参加の皆様から日本女医会の活動等について貴重な意見を聞く事ができ、今後も親睦会として継続する。
・12 月理事会は 13 時半開始。忘年会の食事は希望を取り、多数決で決める。

【継続審議】

1.「女子学生の里親・里子体験事業」（吉馴理事）　＜承認＞
今後は事業部の「医学生活動支援事業」に組み入れて検討する。名称等に関してはなお検討。

2. 会誌同封広告について（資料 3）（古賀理事）　＜承認＞
一般企業：40 円、観劇：10 円、会員広告：20 円で決定し、同封内容については理事会の審議で承認を受けることとする。

【審議事項】

1. 総会（講演会講師）について（山崎副会長）　＜継続審議＞
・当初依頼した「柳田邦男氏」がキャンセルとなり、他の候補として澤口理事より名古屋学芸大学長で日本尊厳死協会理事長の「井形昭弘（いがたあきひろ）先生」の推薦があった。他に養老孟司氏・俵孝太郎氏の候補も挙げられた。
以上の状況を東京都支部連合会に報告し、来月理事会で正式決定する。

2. 各賞の募集について（山崎副会長）　＜承認＞
各賞の締め切りは 12 月 25 日。多くの推薦をお願いしたい。

3. キャリア・シンポジウムの反省と要望書について（津田副会長）　＜承認＞
女性医師支援委員会で作成した要望書（案）を検討した。内容を 1 枚に収め、厚生労働大臣、内閣府特命担当大臣、文部科学大臣宛として、原則手渡しで提出する。提出方法を検討。

4. ブロック懇談会について（小関理事）　＜承認＞
・11 月 15 日（日）11 時より兵庫県医師会館にて「第 13 回ブロック懇談会」を開催。日本女医会からは小田会長、津田副会長、山崎副会長、小関理事、澁谷理事、宮﨑理事、宮本理事の 7 名が出席。
・平成 22 年 1 月 17 日（日）石川にて「第 14 回ブロック懇談会」を開催。役員の多数の参加を要請。
・今後は近郊の会員の方、医学生の参加も呼びかけ、開催地で資金援助をしていただけるよう交渉する。

5. 事業部より（藤川理事）
⑴ 医学生活動支援事業
1）大学祭における広報活動について　＜継続審議＞
・本女医会の広報と将来を見据えて会員になってもらうための会であるので、広報の仕方も考慮しつつ進めていく。
・掲示用「吉岡弥生賞及び荻野吟子賞受賞者」のポスター作成を希望。
・配布の資料 5 の「ポスター展示事業計画（案）」については各自の意見を纏め、次回理事会で再検討する。
2）第 3 回チャットルーム開催について　＜承認＞
12 月 12 日（土）開催を承認。参加が一大学からに偏らないように、今後は広報の仕方を徹底する。
3）学生会員活動（スチューデントアクト student ACT）について　＜継続審議＞
事業部の学生支援活動の一端として全国の女子医学生の活動拠点としたい。日本女医会における学生会員のあり方を構築し、支部を巻き込んでいくためにも、今後慎重に審議を重ねて行く。
将来的には支部会員の協力も得て、学生会員を募りつつ活動する。
⑵ 日本女医会ポスターの HP 掲載について　＜承認＞

6. ホームページについて（澁谷理事）　＜承認＞
・全国の医科大学に教育プログラム（e- ラーニング）URL の有無を問い合わせの手紙を出す。返事の到着順に HP にリンク先 URL を掲載する。
・HP コンテンツ「こころと体の相談室」を早急に UP する。

7. その他
・会誌広告について（高原理事）　＜継続審議＞
広告収入が減少しているので広告獲得の協力依頼。薬品会社リストより依頼可能の会社に氏名を記入してもらう。広告代金値下げも視野に入れ、あづま堂印刷（株）に印刷費用を確認し、来月理事会で再検討する。
・渉外部より（山本理事）　＜承認＞
国際婦人年連絡会・家族福祉委員会より「女性の健康に関して」の講演を依頼された。対馬理事に講演を依頼することが承認された。
・後援依頼　＜承認＞
津田塾大学・女性研究者支援センターより「7 私立大学合同シンポジウム」開催について、名義のみの協賛依頼があり、承認。
・「立候補届け」について　＜承認＞
選挙用「立候補届」の予備がなくなったため、A4 判で「抱負」を書き込むスペースも入れたものを新たに作る。
・職員賞与について（山崎副会長）　＜承認＞

日　時：平成 21年12月20 日（日）午後 1 時 30 分
場　所：京王プラザホテル
出席者：小田、津田、松井、山崎、秋葉、安部、荒木、小関、川村、古賀、澤口、澁谷、高原、田中、塚田、濱田、藤川、宮﨑、宮本、矢口、山田、山本、中井、森川（24 名）
欠席者：内潟、対馬、吉馴（3 名）

11 月理事会議事録を承認

【会長挨拶】

1. 11 月 13 日に天皇陛下即位 20 年記念茶会にお招きを頂いて出席した。賜物であるボンボニエールと金平糖を持参したので味わっていただきたい。
2. 仙台市医師会勤務医からの要望で宮城県医師会が出産・保育中で休

職している医師の医師会費医師免除を認めた。日本医師会も今年から一年間の会費免除を会則に盛り込んだ。何事も動く事により周りも少しは動くと言う事を知った。

3. 12 月 7 日に荒木理事が中心になり女性医師支援に関する要望書を作成し、厚生労働大臣に提出した。副幹事長と厚生労働省副大臣にお会いでき貴重な経験をさせていただいた。
4. 日本女医会は社団法人があるから厚生労働省に要望書を提出できた。このメリットを大いに利用して事業をして行きたい。
5. 厚生労働省の事業も事業仕分けの対象となった。「女性の健康支援対策事業委託費、約 5 億円廃止」、「仕事と生活の調和促進事業、約 9 億円見送り」また独立行政法人福祉医療機構も基金 2,787 億円を国庫に返納することになった。日本女医会の助成金事業は今後どうなるであろうか。
6. 日本眼科医会は失明の社会的コストを試算して約 8 兆円と言う数字を出し、眼科医の社会貢献度をアピールした。議題にも出したが、日本女医会も「女性医師活性化の社会的コスト」をまとめたいと考える。ご検討いただきたい。

【報告事項】

1. 庶務部報告　（古賀理事）
   1) 理事会を開催（11/14）
   2) ブロック懇談会を神戸にて開催（11/15）兵庫県医師会から男性医師 3 名を含め 8 名、日本女医会からは小田会長、津田副会長、山崎副会長、小関理事、澁谷理事、宮崎理事、宮本理事の 7 名が参加との報告が小関理事より、平成 22 年 1 月 17 日、石川開催の式次第の説明が宮本理事からあった。
   3)「女性医師のための労働・保育・教育環境の整備に関する要望書」を生方幸夫副幹事長、長浜博行厚生労働副大臣に小田会長、津田副会長、松井副会長、山崎副会長、荒木理事が提出（12/7）
   4) 職員にボーナスを支給（12/11）
   5) 会員動静
2. 会計部報告　（濱田理事）
   11 月分収支の承認。
3. 事業部報告　（藤川理事）
   第 3 回チャットルームを 12 月 12 日に開催。群馬大学、愛知医大、埼玉医大の学生 9 名が参加。内容は国立成育医療センター勤務の中川温子医師のお話、長くイギリスにいらした川上玲奈医師の英語講座。
   山田理事より、群馬でも 12 月 26 日に「チャットルーム」を開催することになったと報告。
4. 渉外部報告
   1) 松井副会長から 12 月 7 日出席した内閣府男女共同参画局主催の「男女共同参画推進連携会議」報告。
   2) 山本理事から、「国際人権規約完全実施促進連絡会議」として「人権関係条約の早期批准と完全実施に関する要望」を総理大臣始め各省庁に提出したとの報告。国際婦人年連絡会「家族・福祉委員会」では 1 月 18 日に「生涯に亘る女性の健康問題」として対馬理事が講演する。
5. 広報部報告　（澁谷理事）

会誌広告募集のお知らせ

会員の皆様へ

（社）日本女医会は、100 年以上の歴史を持つ女性医師の団体として、女性医師の親睦や研究助成、女子医学生、若手女性医師への支援活動のほか、医師会や女性団体、国際女医会と連携し、女性と子供・高齢者への健康支援などの社会貢献事業を積極的に行っております。年 4 回発行しております機関紙「日本女医会誌」も 200 号を数え、会員ほか医療・行政関係諸団体に毎回 2,000 部余を配布し評価を得ております。

これまで広告掲載に関して制限を設けておりましたが、このたび会員の活動の広がりを広く知っていただくために、会員の皆様をはじめ医療・健康・福祉・美容関係等、より多くの企業様のご協力を得て紙面をより充実させたいと考えました。

会員の皆様にも会誌広告の募集をお願い致したく存じます。また広告掲載を希望される企業をご存知でしたら是非ご紹介賜りたくお願い申し上げます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（社）日本女医会　会　長　小田　泰子
広報部　対馬ルリ子

掲載誌『日本女医会誌』	203 号（2010 年　8 月発行予定） 204 号（2010 年　10 月発行予定） 205 号（2011 年　1 月発行予定）　以降順次発行予定
掲載料（1 回掲載につき）	A4　1 ページ　　50,000 円（税込） A4　1/2 ページ　30,000 円（税込）
出稿申込先	（社）日本女医会事務局　電話：03-3498-0571　FAX：03-3498-8769 e-mail：office@jmwa.or.jp

全国の医科大学に「教育システムに関する URL」の有無について問い合わせた。12 月 16 日現在、回答のあった東京女子医科大学、高知大学、九州大学の 3 校を日本女医会 HP「メディカル e- ラーニング」にアップすることが承認された。

6. 学術部報告　（安部理事）

・HP の「学術研究助成受賞者の軌跡」は 17 名分を掲載。

・「新薬トピックス」にはペインクリニックあるいは糖尿病について掲載を予定。

7. 委員会報告

1）子育て支援委員会　（渋谷理事）

平成 22 年 2 月 7 日に名古屋で連絡協議会を開催。また 2 月 4 日に札幌として第 4 回目の集まりが行われる。

2）長寿社会福祉委員会（山田理事）

11 月 7 日に前橋で講習会を開催。好評のうちに終了。

3）女性医師支援委員会（荒木理事）

12 月 7 日、要望書提出の報告。

4）小児救急・子育て委員会（森川監事）

ミニ講演会開催の報告。

小児救急の小冊子は 3000 冊の残部があり、販売の協力を要請。

小田会長より改訂版作成時には「救急車の呼び方」の追加要望があった。

8. NC 報告　なし

9. その他の報告（松井副会長）

11 月から公益法人準備を依頼している羽田氏の作業進捗状況。

公益社団に申請することを再確認する。

【継続審議事項】

1. 総会について

1）講演会講師（山崎副会長）　＜継続審議＞

澤口理事より 1 名推薦、藤川理事より 2 名の推薦があったが、来月理事会まで候補者を更に募集することに決定。

2）予定行事の確認等（山崎副会長）　＜継続審議＞

来年は選挙の年であるが、前々年には時間不足との声もあったので、庶務部が時間表（案）を作成し、次回理事会で検討する。

2. 学生会員について（藤川理事）　＜継続審議＞

1）学園祭における広報活動について

日本女医会役員（事業部が中心）・支部の会員・学生がコアになって行いたいが、大学祭のみではなく、各地区で行われる会でも利用できるパッケージ化されたもの（年間計画に基づき目的を持ち、実効性があり継続できる）を作成する。

2）スチューデントアクト（student ACT）について

学生さんから出た希望を活動の一環として取り入れるという大きな将来に関わる問題である。現在のところ「スチューデントアクト」と名前をつけるという発想しかないので根本的な議論をするために助言を頂き、具体的な方法を検討して行きたいとの説明が津田副会長よりあった。委員会を設ける、男子学生も入れる、全国医学部学生大会で行ってもらう等の意見があったが、継続審議とする。

3. 会誌広告について（高原理事）

年々広告料が減収となっているため「広告料の値下げ」と「システム作り」の提案があった。

・広告料は全紙 10 万円を 5 万円、1/2 紙 5 万円を 3 万円とする事に決定。　＜承認＞

・可能な役員全員が「一年に 1 ～ 2 社」の広告獲得をすることにより、通年的な広告獲得のシステム作りを図りたいとの説明があった。

・広告は製薬会社に限定せず、会員に広告獲得を依頼あるいは会員に広告の掲載を依頼する等の意見も出された。

・広告募集の依頼文を会計部と広報部で作成し、システム化を図る。　＜継続審議＞

【審議事項】

1. 要望書の公開について(津田副会長)　＜承認＞

・12 月 7 日に長浜厚生労働副大臣に「女性医師のための労働・保育・教育環境の整備に関する要望書」を提出したが、各報道関係メディアからも「要望書」の内容について問い合わせがきている。内容を追加訂正し、各メディアに日本女医会の要望書を公開することに決定。

・川端文部科学省大臣、福島男女共同参画少子化等担当大臣には郵送する。

2. 女性医師活性化の社会的コストの検討について（津田副会長・小田会長）　＜継続審議＞

・小田会長から眼科医会で「失明のコスト」について社会的な損失額（失明を予防することのメリット）をデータ化し、発表した。

日本女医会でも女性医師が就労した場合の社会的コスト、社会を活性化させる等のメリット、女性医師が仕事を中断した場合のデメリットという切り口で検討してはどうか、との提案があり、今年度中に素案を作成し、次期役員に活動を引き継ぎたいとの希望があった。

・医師の社会的責任を女子医学生に再認識してもらう為にも良い。（古賀理事）

・厚生労働省にこの表題で提案してはいかがか。（藤川理事）

・日本女医会として女性医師が就労した場合の社会的貢献（コストアップ）を数量化するのはとても良い。（松井副会長）

・現時点では「研究助成金」を該当研究に助成する事、講演会等に該当研究をされている方に講演していただく等が現実的である。（荒木理事）

等の意見が出され、更に今後検討するに決定。

3. 平成 22 年度理事会開催日について（山崎副会長）　＜継続審議＞

庶務部で原案を作成し、1 月の理事会で諮る。

4. 各賞選考委員会開催日について（山崎副会長）　＜承認＞

2 月 20 日理事会の開催日とする。

5. 吉岡弥生賞、荻野吟子賞規定について（古賀理事）　＜継続審議＞

規定の改正案について検討、1 月理事会で諮る。

6. その他

・市民公開講座の申請（宮城支部より）（山本理事）　＜承認＞

2 月 28 日宮城で開催の市民公開講座に 10 万円の助成の申請に対し承認する。

・HP に HPV ワクチン認可に関する「宣言文」掲載について（津田副会長）

HPV ワクチンが認可になり、12 月 22 日発売になる。日本女医会としてはこれまでも、HPV ワクチンの啓発・普及活動を行ってきた。ワクチンの認可、発売について HP に「宣言」を掲載する。宣言文は

会長に一任。
・澤口理事より平成 22 年度「長寿社会福祉基金」の申請は見合わせたとの報告。
・宮崎理事より HP「こころと体の相談室」の次回は皮膚科の先生にお願いしたい旨の依頼あり、皮膚科の塚田理事に依頼。

日　時：平成 22 年 1 月 16 日（土）午後 3 時
場　所：日本女医会会議室
出席者：小田、津田、松井、山崎、秋葉、荒木、内潟、小関、川村、古賀、澁谷、高原、田中、塚田、対馬、濱田、藤川、宮崎、宮本、矢口、山田、山本、中井（23 名）
欠席者：安部、澤口、吉馴、森川（4 名）

12 月理事会議事録を承認

【会長挨拶】

1. 新年の挨拶
2. 茨城県の宮本支部長が辞意を表明され、日本女医会から後継者を指名してくれるよう要請があった。日本女医会の支部活動の低迷を危惧している。
3. 次期、次々期総会は東京都で決定している。地方の活性化の為にもその次の総会はぜひ地方で開催していただきたい。
4. 今年は日本女医会始め日本医師会、各県医師会の役員改選の年である。変化は進歩につながる。変化の時こそ女性が飛躍するときである。皆さんも恐れずに挑戦していただきたい。
5. 中国女医会から総会出席のご案内をいただいた。
6. 平成 21 年 12 月 22 日に HPV ワクチンについての宣言を新しく「社団法人日本女医会は HPV ワクチンが承認され、平成 21 年 12 月 22 日から、日本でワクチン接種が可能になったことを歓迎します。今後とも、さらなる啓発活動と接種費補助獲得に向かって活動を続けます」とした。また、HP に宣言を掲載した。
7.「フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団」で助成金事業をしている。日本女医会からも申請してはいかがか。

【報告事項】

1. 庶務部報告（小関理事）
   1）理事会、忘年会を京王プラザにて開催（12/20）
   2）2011 年 MWIA-WPR の打ち合わせを京王プラザにて開催（12/27）
   3）会員動静
2. 会計部報告　（塚田理事）
   12 月分収支の承認。
3. 事業部報告　（藤川理事）
   第 4 回チャットルームを 12 月 23 日に開催。前回と同様、川上玲奈医師の英語講座（学生参加者：3 名）。
   第 5 回チャットルームを 1 月 16 日午前中に開催。英国人女性医師による「肝移植患者体験談」（学生参加者：9 名）。今後も医学英語講座を開催の予定。
4. 渉外部報告
   1）1 月 7 日「2010 年各界女性新年交歓会」に出席した報告。円議員に要望書提出の際のお礼を述べた。前千葉県知事の堂本暁子氏から日本女医会と協力して行きたいとの申し出があった。（松井副会長）
   2）1 月 14 日開催の「国際婦人年連絡会 家族・福祉委員会」で対馬理事が「生涯にわたる女性の健康」について講演。（山本理事 / 対馬理事）
   3）3 月 1 日開催の「健やか親子推進協議会・総会」に出席予定。また、活動報告資料提出については「審議事項、その他」で検討。
   4）国際人権規約完全実施促進会議として「人権関係条約の早期批准と完全実施に関する要望書」を 1 月 20 日に総理大臣始め各省庁に提出。（山本理事）
5. 学術部報告　（内潟理事）
   1）HP の「学術研究助成受賞者の軌跡」は対象者 96 名中 82 名に依頼。寄稿があった 26 名中 19 名分を HP に掲載。不明者の連絡先を調べている。協力を依頼。
   2）「新薬トピックス」はシャロン・ヘンリー先生（北海道大学）から寄稿済み。また、津田副会長と小田会長に原稿依頼中。
6. NC 報告　（内潟理事）
   第 28 回国際女医会議が 2010 年 7 月 27 日～ 31 日にドイツ・ミュンスターで開催。演題抄録の締め切りは 2 月 28 日。学会参加登録の締め切りは 6 月 1 日。案内を会誌 201 号に掲載。
7. 広報部報告　（秋葉理事）
   1 月 5 日に日本女医会会議室で編集会議を開催。現在 201 号会誌の発行準備中。
8. 委員会報告
   1）子育て支援委員会　（対馬理事）
   本日、1 月 16 日理事会終了後に委員会を開催。2 月 7 日に名古屋でゆいネット連絡協議会を開催。3 月 7 日に東京（ルークホール）で報告会を開催。
   2）長寿社会福祉委員会（松井副会長）
   2 月 14 日、富山で講習会を開催。高原理事より準備中との報告。
   3）女性医師支援委員会（荒木理事）
   特になし。
9. その他の報告
   1）津田副会長から医療タイムス社編集部・市原彩子氏に日本女医会の女性医師支援について回答記事を送付したとの報告。
   2）公益法人準備を依頼している羽田氏から作業中の新公益制度に沿った定款(案）について「資料 3」を基に説明があった。各自で検討すること。
   3）古賀理事より宮城県における HPV ワクチンの摂取費用、また検診クーポン券の現在の状況を説明。また宮崎理事より追加説明があった。

【継続審議事項】

1. 総会講演会講師（山崎副会長）＜承認＞
   講演会候補者に澤口理事と小田会長からそれぞれ推薦の他に小関理事から新たに推薦が 1 名あった。検討の結果、総会講演会演者は藤井美和氏に依頼することに決定。依頼方法については今後考える。
2. 学生会員について（藤川理事）＜継続審議＞
   チャットルームの資料も含め次回理事会で検討。
3. 女性医師活性化の社会的コストの検討について（津田理事）＜継続審議＞
   有識者の方の協力も得て今後検討して行きたい。内潟理事より「日本女医会サポーターシステム」を利用すべきであるとの意見があった。
4. 平成 22 年度理事会開催日について（古賀理事）＜承認＞

（案）に基づき次年度理事会開催日を仮決定。6月以降は新役員が改めて検討する。

古賀理事より、今期理事会の欠席状況について説明があり、次回の立候補の際の参考にしてほしいとの要請。

5. 吉岡弥生賞、荻野吟子賞規定について（古賀理事）　＜承認＞

文言だけの変更を承認。全て日本女医会の前に「社団法人」を入れる。

6. 会誌広告依頼文（対馬理事）　＜承認＞

企業向けと会員に向けの会誌広告依頼文（4月の会誌に掲載）を作成。企業に依頼する際は「企業向け依頼文」に「趣意書」と「広告申込書」を添付して使用する。

【審議事項】

1. 第55回定時総会について（山崎副会長）

・進行表（資料8）を参考に各自で次回理事会までに検討すること。＜継続審議＞

必要性についても今後検討する。

・議長、選挙管理委員の人選　＜承認＞

会長が決定後報告する。

・次々期開催地　＜継続審議＞

今年と来年と東京開催が続き、再来年は選挙があるが東京以外の開催も視野に今後検討していく。

2. 平成22年度事業計画案および予算案について

各部で検討の上2月13日までに事務局に提出すること。

3. 2011年MWIA-WPRの件（内潟理事）

12月27日に行われた「打ち合わせ会議」の内容説明があり確認した。

HPのトップページのデザイン（案）を検討し、全員一致で「デザイン3」に決定。

4. 会員外監事の総会出席時の費用（交通費、宿泊費など）（山崎副会長）　＜承認＞

今後こちらから依頼して監事になって頂いた方には遠方の総会出席の際には交通費と宿泊費を払うことに決定。現在監事の中井さんには大阪への費用から支払う。

5. その他

・乳房健康研究会からの後援依頼　＜承認＞

例年の「ピンクリボンウォーク2010」の名義後援を決定。

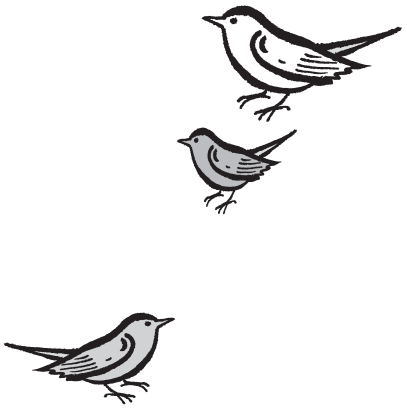
・「健やか親子21推進協議会総会」の資料について（山本理事）　＜承認＞

今回は資料を配布しないこととする。

・小田会長の「中国女医会　第1回総会」出席について　＜承認＞

日本女医会会長としてではなく、個人としての参加とする。

以上



gsk GlaxoSmithKline 生きる喜びを、もっと
Do more, feel better, live longer

新発売

がんはワクチンで予防できる時代へ。

はじめてください、子宮頸がん予防*。

*ヒトパピローマウイルス(HPV)16型及び18型感染に起因する子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)2及び3)の予防

【接種不適当者】(予防接種を受けることが適当でない者)
被接種者が次のいずれかに該当すると認められる場合には、接種を行ってはならない。
(1)明らかな発熱を呈している者
(2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
(3)本剤の成分に対して過敏症を呈したことがある者
(4)上記に掲げる者のほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

【効能・効果】
ヒトパピローマウイルス(HPV)16型及び18型感染に起因する子宮頸癌(扁平上皮細胞癌、腺癌)及びその前駆病変(子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)2及び3)の予防

効能・効果に関連する接種上の注意
(1)HPV-16型及び18型以外の癌原性HPV感染に起因する子宮頸癌及びその前駆病変の予防効果は確認されていない。(2)接種時に感染が成立しているHPVの排除及び既に生じているHPV関連の病変の進行予防効果は期待できない。(3)本剤の接種は定期的な子宮頸癌検診の代わりとなるものではない。本剤接種に加え、子宮頸癌検診の受診やHPVへの曝露、性感染症に対し注意することが重要である。(4)本剤の予防効果の持続期間は確立していない。

【用法・用量】
10歳以上の女性に、通常、1回0.5mLを0、1、6ヵ月後に3回、上腕の三角筋部に筋肉内接種する。

用法・用量に関連する接種上の注意
他のワクチン製剤との接種間隔:生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6日以上間隔を置いて本剤を接種すること。

【接種上の注意】
1. 接種要注意者(接種の判断を行うに際し、注意を要する者)
被接種者が以下に該当すると認められる場合は、健康状態及び体質を勘案し、診察及び接種適否の判断を慎重に行い、予防接種の必要性、副反応、有用性について十分な説明を行い、同意を確実に得た上で、注意して接種すること。(1)血小板減少症や凝固障害を有する者[本剤接種後に出血があらわれるおそれがある。](2)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する者(3)予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた者(4)過去に痙攣の既往のある者(5)過去に免疫不全の診断がなされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者(6)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人["妊婦、産婦、授乳婦等への接種"の項参照]

2. 重要な基本的注意
(1)本剤は、"予防接種実施規則"及び"定期の予防接種実施要領"を参照して使用すること。(2)被接種者について、接種前に必ず問診、検温及び診察(視診、聴診等)によって健康状態を調べること。(3)被接種者又はその保護者に、接種当日は過激な運動は避け、接種部位を清潔に保ち、また、接種後の健康監視に留意し、局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、痙攣等の異常な症状を呈した場合には、速やかに医師の診察を受けるよう事前に知らせること。
3. 相互作用
併用注意(併用に注意すること)　**免疫抑制剤**
4. 副反応
国内臨床試験において、本剤接種後7日間に症状調査日記に記載のある612例のうち、局所(注射部位)の特定した症状の副反応は、疼痛606例(99.0%)、発赤540例(88.2%)、腫脹482例(78.8%)であった。また、全身性の特定した症状の副反応は、疲労353例(57.7%)、筋痛277例(45.3%)、頭痛232例(37.9%)、胃腸症状(悪心、嘔吐、下痢、腹痛等)151例(24.7%)、関節痛124例(20.3%)、発疹35例(5.7%)、発熱34例(5.6%)、蕁麻疹16例(2.6%)であった。
海外臨床試験において、本剤接種後7日間に症状調査日記に記載のある症例のうち、局所(注射部位)の特定した症状の副反応は7870例中、疼痛7103例(90.3%)、発赤3667例(46.6%)、腫脹3386例(43.0%)であった。また、全身性の特定した症状の副反応は、疲労、頭痛、胃腸症状(悪心、嘔吐、下痢、腹痛等)、発熱、発疹で7871例中それぞれ2826例(35.9%)、2341例(29.7%)、1111例(14.1%)、556例(7.1%)、434例(5.5%)、筋痛、関節痛、蕁麻疹で7320例中それぞれ2563例(35.0%)、985例(13.5%)、226例(3.1%)であった。局所の上記症状は大部分が軽度から中等度で、3回の本剤接種スケジュール遵守率へ影響はなかった。また全身性の上記症状は接種回数の増加に伴う発現率の上昇はみられなかった。(承認時)
(1)重大な副反応
ショック、アナフィラキシー様症状(頻度不明注1)):ショック又はアナフィラキシー様症状を含むアレルギー反応、血管浮腫があらわれることがあるので、接種後は観察を十分に行い、異常が認められた場合には適切な処置を行うこと。
注1)海外のみで認められている副反応については頻度不明とした。

※その他の接種上の注意等については添付文書をご参照ください。
2009年10月作成(第1版)

ウイルスワクチン類　薬価基準未収載
生物由来製品 | 劇薬 | 処方せん医薬品(注意ー医師等の処方せんにより使用すること)

サーバリックス®
Cervarix® 組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン
(イラクサギンウワバ細胞由来)

製造販売元(輸入)
グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566　東京都渋谷区千駄ヶ谷 4ー6ー15

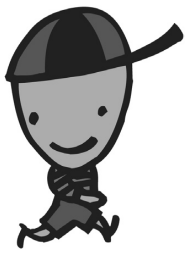
グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先
TEL:0120-561-007(9:00～18:00／土日祝日および当社休業日を除く)
FAX:0120-561-047(24時間受付)

2009年12月作成

厚生労働省より平成22年度第64回「児童福祉週間」のおしらせ

厚生労働省では、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に、毎年5月5日より一週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種事業及び行事を行っています。今年度も引き続き各種事業及び行事を展開することにより児童福祉の理念の一層の周知と子どもを取り巻く諸問題に対する社会的関心の喚起を図るものです。

平成22年度「児童福祉週間」概要



1. 主　唱　　厚生労働省、（社福）全国社会福祉協議会、（財）こども未来財団
2. 期　間　　平成22年5月5日（水）より5月11日（火）までの一週間
3. 標　語　　「地球はね　笑顔がつまった　星なんだ」（全国公募により選定された作品）
4. 主な取組　（1）広報・啓発ポスターの作成
   （2）こいのぼり掲揚式（於：厚生労働省正面玄関広場）
   （3）児童福祉文化賞
   （4）全国の各自治体による各種の啓発事業及び行事

（社）日本女医会よりご案内

日本女医会 吉岡弥生賞 推せんについて

平成22年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。

締め切り期日は、平成22年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1.自筆履歴書
2.業績
イ)医学に貢献した現会員。
ロ)社会に貢献した現会員。
3.推せん理由

日本女医会 荻野吟子賞 推せんについて

平成22年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成22年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

地域医療奉仕活動に対する助成のご案内

平成22年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申しあげます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成22年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

（社）日本女医会　事業部

第31回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

1.助成の趣旨　医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。
2.助成金額　1件30～50万円(3件)
3.申込手続
⑴応募資格：入会継続3年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ（ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること）
⑵助成期間：1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。
⑶応募方法：本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。1通を提出（用紙は事務局へ請求のこと）
⑷締切期日：平成22年12月25日必着
⑸選考および発表方法：選考委員会において選考の上、平成23年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。
⑹助成金の贈呈：平成23年5月開催の日本女医会総会の席上。
⑺受賞者の本会に対する義務：平成24年3月末日までに研究経過報告（A4原稿用紙2枚程度）と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。
⑻送り先：社団法人 日本女医会　〒150-0002　東京都渋谷区渋谷2-8-7　☎03-3498-0571

社団法人日本女医会

第55回定時総会のお知らせ

諸先生にはお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。
さて、第55回総会を左記のように開催致します。本年は役員改選の年ですが、定数以上の立候補がありましたので選挙になる可能性がございます。
選挙がある場合は11時の総会開始後選挙となり、遅刻された方は投票できなくなりますので、必ず11時までにご入場くださいますようお願い申し上げます。また会長、副会長の互選もございますので、多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

平成22年 5月15日(土)、16日(日)

場所：京王プラザホテル　〒160-8330　東京都新宿区西新宿2-2-1（電話03-3344-0111）

5月15日(土)

評議員会　17：00〜19：00＜42階：富士＞
懇親会　19：00〜21：00＜4階：錦＞　会費：15,000円

5月16日(日)

総会　11：00〜（選挙も含む。軽食の用意があります）　登録費：3,000円　＜4階：花＞
講演会　14：30〜「いのちに寄り添う」藤井 美和先生　＜4階：花＞
（関西学院大学 人間福祉学部 人間科学科教授
死生学・スピリチュアリティ研究センターセンター長）

※京王プラザホテル宿泊ご希望の方は日本女医会事務局までご連絡くださいませ。
シングル：22,000円／ツイン：14,000円（お一人）（いずれも朝食付き、税・サービス料込み）

☎：03-3498-0571　FAX：03-3498-8769　メール：office@jmwa.or.jp　社団法人日本女医会

会員動静（2010年3月20日現在・敬称略）

入会
今村　純子（昭54年卒）群馬
菊地　麻美（平7年卒）群馬
伊野宮かおり（平7年卒）埼玉
大蔵とく子（昭46年卒）埼玉
木下　茂美（昭56年卒）足立
大野　孝恵（平6年卒）世田谷
中村　祐子（昭58年卒）中野
吉野　一枝（平5年卒）中野
隈部　桂子（昭59年卒）山梨
覚道奈津子（平14年卒）大阪6

退会 17名

物故
森　千恵子（昭20年卒）杉並
榊原八千代（昭13年卒）練馬
増田志津子（昭13年卒）都下東
近藤ふみ子（昭34年卒）神奈川

編集後記

広報部委員になって対馬委員長のもと最初に着手したのがHPの刷新でした。日本女医会は大変素晴らしい事業を行っているにもかかわらずアピールが下手。何とか会員のみならず一般への認知を得たい、しかし今の姿勢はくずさずにと四苦八苦してとにかく今の形に落ち着きました。が、HPという媒体は未だ発展途上であり、まだまだ改良の余地ありと考えています。ユーザーの方々のフィードバックを得てますますよいものにしていかなければならないと思っております。
次に勧誘文の刷新にも着手しました。これは総会の承認を得る必要のある項目が多く現在保留となっておりますが、次年度には完成の運びとなるのではないかと思います。
勿論、吉岡彌生氏の遺志を受け継いだ会報の発行も手を抜くことはできず今年度は広報部委員全員かなりのハードワークだったのではないかと思いますが、和気藹々と続けてこられたのは日常診療で忙しい中、皆時間の使い方がとても上手で、私も見習いたいと思ったものでした。
私たちはここで一旦広報委員を解散しますが、次年度の委員の方には日本女医会の意思を発表する場としてさらなる活躍を祈念したいと思います。二年間どうもありがとうございました。
（澁谷きよみ）

日本女医会誌

復刊第202号　2010年4月25日発行

編集人　対馬ルリ子
発行人　小田泰子
制作　あづま堂印刷株式会社
発行所　社団法人 日本女医会
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7青山宮野ビル
TEL 03-3498-0571　FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp
e-mail : office@jmwa.or.jp